

紙ふうせん

KAMIFUSEN No.93

成田市立図書館だより 第93号

2022 (令和4) 年 3月31日発行

編集 成田市立図書館

〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3

<https://www.library.city.narita.lg.jp>

☎ 0476-27-4646 (自動応答)

0476-27-2000 (直通)

FAX 0476-27-4641



大人のためのおはなし会



2021 (令和3) 年12月9日 (木曜日)、「大人のためのおはなし会」を開催しました。

当日は、22名の方にご参加いただきました。師走の気忙しさから離れ、おはなしの世界を楽しんだひとときでした。



(紙面紹介)

- ・市史講座「貝塚が語る成田の縄文」講師：小川和博氏（日本考古学協会員）
- ・図書館講座「日本経済新聞の読み方」
講師：山口正人氏（日本経済新聞社 法人ソリューションユニット企画委員）
- ・杜のふゆのおはなしかい

市史講座「貝塚が語る成田の縄文」

講師：小川和博氏（日本考古学協会員） 2021.11.7（日）



縄文時代にあった温暖化による「縄文海進」の時期に縄文人が遺した多くの貝塚や遺跡が、成田でも見つかっています。講師の小川先生は、成田の貝塚について調査されており、『成田

市史研究』や『図説成田の歴史』なども執筆されています。今回の市史講座では、貝塚が語る縄文時代について詳しく解説していただき、大変有意義な講演となりました。

時間の制約もあり、参加者からの質問については後日「紙ふうせん」で回答するというので、小川先生より回答をいただきましたので、次に掲載いたします。

質問1 縄文時代にもタケが使われたようですが、タケの枝や節によって土器の文様が付けられている物がありますか。

回答 タケの「枝」「節」を施文具とした文様については、ササの円形・半円形等の「竹管文」とは違い、判別が困難でその使用例は確認できていません。枝・節の痕跡の見極めは難しいでしょう。

質問2 貝塚は穴を掘って入れた場所ですか。

回答 貝を廃棄する目的で穴を掘ることはありませんが、すでに掘られた使用済の土坑（貯蔵穴）や廃棄された家屋などのくぼ地には廃棄されます。

質問3 成田の貝塚は、時代で場所が変わっていますが、人が住んでいる場所が変化していたということでしょうか。

回答 縄文人の生活の拠点となる集落形成の選定地については十分解明されていません。少なくとも水の確保・日当たりあるいは貝や動物などを獲得しやすい土地が最適であったに違いありません。今でいう入会権や管理地などの規制はなかったでしょうが、いくつかの集落が集まって共同体的な組織を

作っていたものと思われます。その例として荒海貝塚と周辺に小規模貝塚群が存在します。荒海貝塚を中心に、短期間しか居住しない小貝塚は、貝の採取やシカなどを獲得するキャンプ地であった可能性が高いと推定されます。

質問4 スライドの中で、「イノシシの家畜」とありましたが、事実でしょうか。

回答 縄文時代、野生イノシシが生息しない北海道や三宅島・八丈島などの島嶼の遺跡からイノシシの骨が出土したことで、飼育された仔イノシシを舟で持ち込んだと考えられています。また茂原市下太田貝塚では、人やイヌの墓地からイノシシの埋葬骨が出土しており、家畜とみられています。

質問5 貝塚は、弥生文化が芽生え、保存や栽培技術が発達しはじめたことにより終わったのですか。

回答 ご指摘の通り、食糧が貝から米へ転換したことが貝塚の終わりの要因と考えられます。それは縄文から弥生への時代変換ともいえるでしょう。しかし縄文時代の終わり頃、市内は満潮時には鹹水（塩水）、干潮時には真水となる汽水域であり、稲作は不可能でした。このため弥生時代になってもなお、縄文的な生活を続けていたものと推定されます。荒海貝塚に近接する荒海川表貝塚から出土した土器の特徴は弥生時代のものでしたが、米食ではなく貝食が行われていました。

質問6 貝塚は、縄文海進により海岸が増え、気温が上昇し、貝が採れるようになったことによって作られるようになったのですか。

回答 海進とは、縄文早期後葉から前期前葉の約6,500年前、気候の温暖化に伴い、海水面が上昇し、海が陸地に進入してきたことをいいます。その結果、食料として貝類などの水産資源が入手しやすくなり、ゴミ捨て場である貝塚が出現します。

図書館講座「日本経済新聞の読み方」

講師：山口正人氏（日本経済新聞社 法人ソリューションユニット企画委員）
2021.12.4（土）



図書館には、ビジネスに役立つ情報の提供を目的とする「ビジネス支援サービス」があります。このサービスを知っていただくきっかけとして、ビジネス支援講座「日本経済新聞の読み方」を開催しました。講師には、金融機関などの企業の研修講師としてご活躍されている、日本経済新聞社の山口正人氏をお迎えしました。申込開始から早々に定員に達し、高校生から大人の方まで40名の参加がありました。

今回の講座では、ビジネス視点で新聞を読むことの意義や、「経済用語や過去の経緯がわからない」「数字が出てきてもピンとこない」などの経済新聞を難しく感じさせる原因について、解説をしていただきました。当日発行された新聞を使いながら、地球温暖化やデジタル化などの課題別に、注目すべきニュースキーワードについて知識を深めました。

「新聞の構成や読み方のポイントを知ることができた」「経済用語が、実は自分と関係が近いということを実感した」など、多くの感想をいただきました。効果的に情報を読み取るテクニックと、これからの生活や仕事に新聞を活かす方法を学べる講座となりました。



ニュースキーワードについて解説する山口氏

参考になる資料 ※全て図書館で借りることができます。
『小宮一慶の「日経新聞」深読み講座』小宮一慶/著
日本経済新聞出版社
『Q&A 日本経済のニュースがわかる!』
日本経済新聞社/編 日本経済新聞出版社
図書館本館2階の参考資料室では、日経テレコン21や日本
経済新聞縮刷版もご利用いただけます。

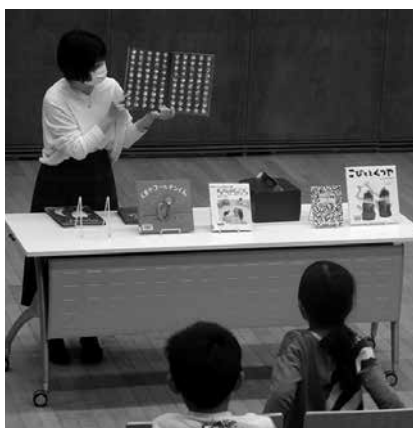
杜のふゆのおはなしかい 2021.12.23 (木)

2021（令和3）年度の杜のふゆのおはなしかいは、もりんぴあこづ2階のMORI×MORIホールを会場に開催し、小さいお子さんから小学生、保護者の方も合わせて35名の方にご参加いただきました。

楽しい季節のおはなし

今回は、クリスマスイブの前日のおはなしかいとなったため、クリスマスにちなんだ絵本や冬のおはなしを楽しみました。

演目は、大型絵本『100にんのサンタクロース』、『くまのコールテンくん』、小道具を使ったおはなし「大事なケーキ」と、「こびととくつや」でした。



子どもたちは登場人物と一緒に、体を揺らしたり、前のめりになったり、笑い声を出したりと、おはなしの世界をいっぱい楽しんでいました。おはなしかいの最後には、読んだ絵本を紹介し、長靴の形のプログラムをプレゼントとして配布しました。

杜のおはなしかい


公津の杜分館では月2回程度、火曜日午後3時から「杜のおはなしかい」を開催しています。もりんぴあこづ内の広いお部屋を使って、季節の絵本などの読み聞かせをしています。ぜひ、遊びにきてください。

編集後記

今年度の講座・イベントも、新型コロナウイルス感染症に配慮しての開催となりました。参加していただいた皆さんには感染予防対策にご協力いただきありがとうございました。今後も皆さんに関心を持っていただけるような講座やイベントを企画してまいります。

成田市立図書館だより	No.93
発行	成田市
編集	成田市立図書館
〒286-0017 千葉県成田市赤坂 1-1-3	
	☎ 0476(27)2000
発行日	2022.03.31
登録番号	成教図 21-159



リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。